

平成 19 年 2 月 26 日

各 位

会 社 名 株式会社 NFK ホールディングス
 代表者の役職名 代表取締役社長 武田 芳夫
 (JASDAQ コード番号：6494)
 問い合わせ先 取 締 役 山 本 英 次
 電 話 番 号 03-5550-7381

特別損失の発生および平成 19 年 3 月期通期業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向等を踏まえ、平成 18 年 11 月 19 日の中間決算発表日に公表した平成 19 年 3 月期（平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日）の業績予想を下記のとおり修正いたします。

1. 平成 19 年 3 月期通期連結業績予想の修正（平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日）

（単位：百万円）

| | 売 上 高 | 経 常 利 益 | 当 期 利 益 |
|------------|--------|---------|---------|
| 前回発表予想 (A) | 18,000 | 157 | △350 |
| 今回修正予想 (B) | 13,000 | △0 | △1,600 |
| 増減額 (B-A) | △5,000 | △157 | △1,250 |
| 増減率 (%) | △27.8% | — | — |

* 平成 18 年 3 月期は決算期変更により半期決算となっておりますので、比較対照しておりません。

2. 修正理由

売上高については、ファーネス事業は堅調に推移しております。しかしながら当社子会社である㈱ユニバーサルハウジングが第 4 四半期に売上を見込んでいた大型案件の契約が来期にずれこみ、売上として 5,000 百万円程減少が生じる見通しです。

その結果売上高は 13,000 百万円となる見通しです。

一方経常利益については、ファーネス事業の中心子会社である日本ファーネス㈱が、開発要素の高い受注品の開発費が予想を上回り、開発費用等をまかなうことができない見込となり、また㈱ユニバーサルハウジングの売上高減少により、営業利益ベースでは 150 百万円の利益を確保出来るものの、金利負担等の営業外費用を吸収できない見込みとなり経常利益が △0 百万円となる見込みです。

当期利益については、中間期において、FS 投資事業組合に対する投資損失金を計上致しておりますが、当社の今後の事業展開を検討した結果、新規事業のモータ事業関連からの撤退

を含めた事業の再編の必要が生じております。モータ事業は昨年の秋頃までは、開発等の事業の進捗がありました。しかし当初予想よりもアシスト自転車の競合との競争が激化しており、市場優位性の確保と採算性の課題があります。また、リングモータについては技術的な問題もあり製品化に当初予想よりも時間を要することが判明致しました。さらに当グループとしてはファーンレス事業に経営資源を集中し、モータ事業からの撤退を視野にいれ、不動産事業等については現状維持をしながら経営の立て直しの推進を図ります。このため、新たに700百万円の事業撤退に伴う損失金を見込んでおります。なお中間期において特別利益として5億円を見込んでおりましたが、3億円となりました。その結果当期純損失は1,600百万円（前回予想費1,250百万円減）となる見通しです。

また、㈱ユニバーサルハウジングにおける不採算在庫の処分は平成19年1月でほぼ完了しており、今後は当該会社において、大きく損益に影響を与えるものはない見込みです。

なお、平成19年3月期個別業績予想は、平成18年11月20日に開示致しました「個別中間財務諸表の概要」にて発表致しました予想から修正はございません。

*上記の予想は、作成時点における経済環境や当社をとりまく事業環境に基づく予想であり、実際の業績は様々な要素により、これらの業績予想とは異なる場合があります。

以上